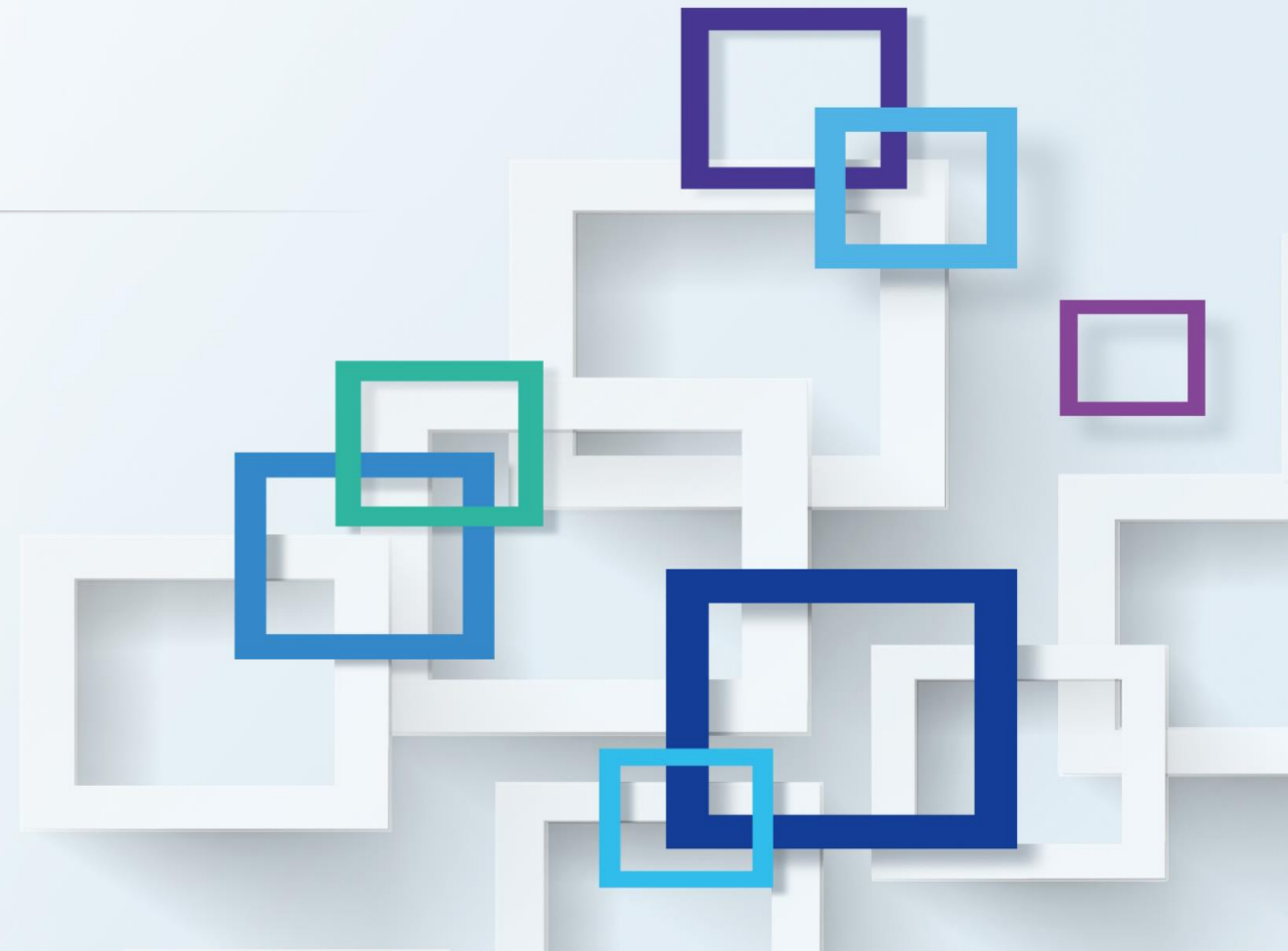


インパクト投資における課題

Tokio Marine Asset Management

菊池勝也

巻末のご留意事項をご確認ください。



インパクト投資に関する視点

図表2 | インパクト投資とは何か



この部分の議論

インパクト投資の定義・視点に関する課題

✓ インパクト投資の特徴とは: サステナブル投資 (ESG投資) との違い

インパクト投資の特徴

- ① 経済的リターン
- ② ポジティブな社会的・環境的インパクトを創出する「インテンシヨナリティ」と「アディシヨナリティ」
- ③ インパクトの測定・報告

①が一般的投資と同様であれば、②および③において違い(特徴)の明確化が必要。

✓ 社会的「期待リターン(資本コスト)」をどう考えるか

経済的リターンを追求する投資の場合は、投資対象に対して「期待リターン(資本コスト)」を上回るリターンを求めることが基本。では、社会的リターンについてどのように考えるか。

エンゲージメント・上場株投資に関する課題

✓ エンゲージメントの多様化・専門化への対応(次ページにイメージ図)

エンゲージメントのテーマ、企業と投資家のエンゲージメントの担い手が多様化かつ専門化し、エンゲージメントにおける分断が発生するリスクがある(サステナビリティ分野において生じている課題でもある)。

スタートアップ企業では専門的な担い手の不足が課題。

投資家側もインパクト投資を専門的に行う運用会社以外では同様。

✓ 上場株投資における「インテンシオナリティ」と「アディシオナリティ」

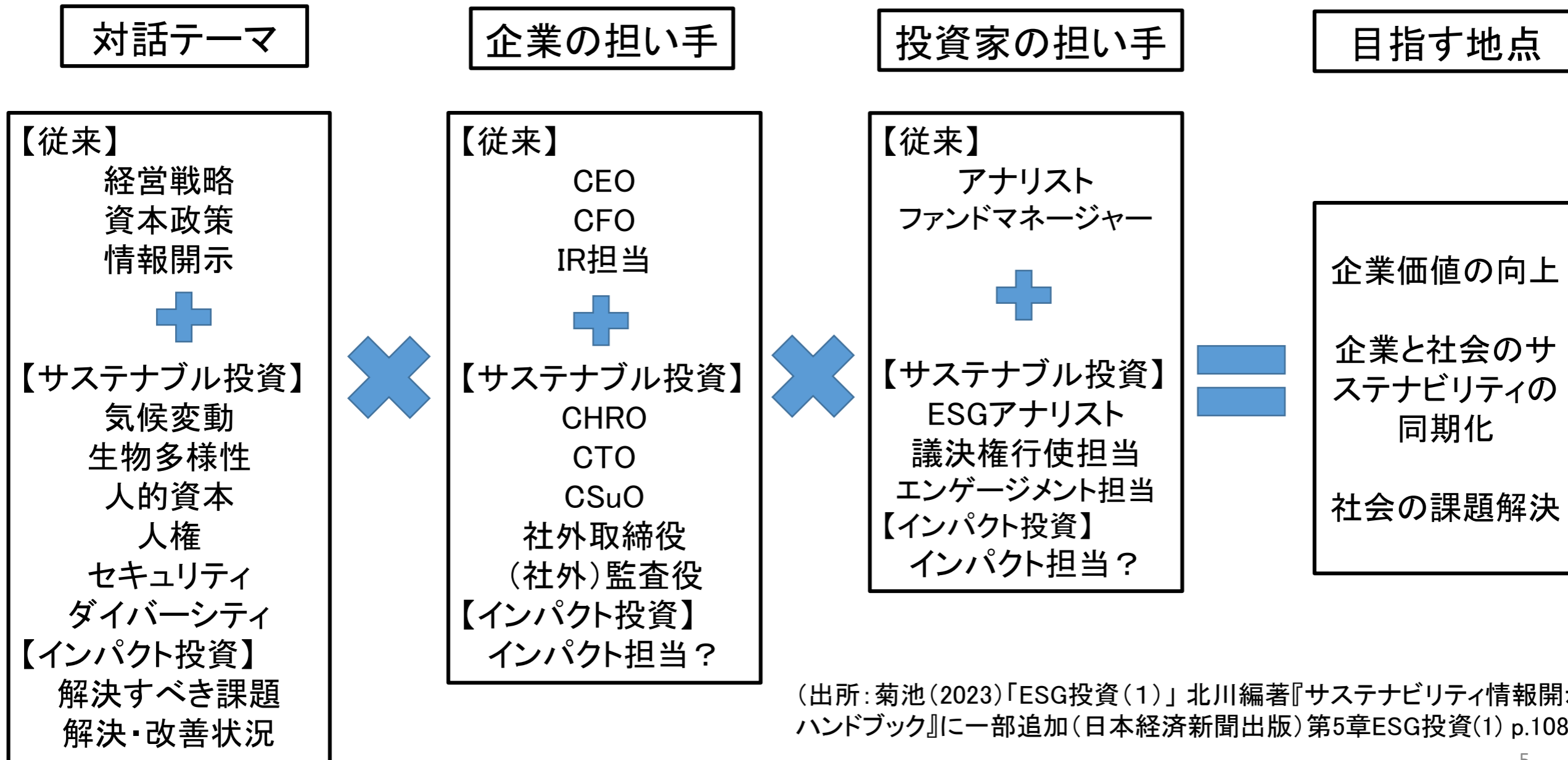
「インテンシオナリティ」: 後付け感のない「インテンシオナリティ」

事前開示すれば明確化しやすいが、具体的な投資の事前開示は困難。

「アディシオナリティ」: 上場株においては追加性を明らかにすることが難しい。

エンゲージメントを過度に強調することなく、一般的な投資では見過ごされがちであったインパクト企業を発掘できるか(投資対象の差別化)という視点も重要では。

企業と投資家の関係性の多様化・専門化



(出所: 菊池(2023)「ESG投資(1)」北川編著『サステナビリティ情報開示ハンドブック』に一部追加(日本経済新聞出版)第5章ESG投資(1) p.108))

留意事項

- 当資料は、情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容等は作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保障するものではなく、また今後予告なく変更することがあります。
- 当資料の意見にかかわる部分については、作成者個人の見解であり、作成者の所属する東京海上アセットマネジメント株式会社および他の組織等の見解を示すものではありません。
- 当資料の全部もしくは一部を第三者へ交付することはご遠慮ください。